

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530201

研究課題名(和文) 国家統治と市場構造における腐敗・汚職の経済分析

研究課題名(英文) The Economic Analysis of Corruption on Governance and Market Structure

## 研究代表者

溝口 哲郎 (Mizoguchi, Tetsuro)

麗澤大学・経済学部・准教授

研究者番号：40566890

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：公職に携わる人々が私益のために職権を濫用する腐敗・汚職の問題は、資源配分に歪みをもたらす。本研究は、腐敗・汚職が国家・市場制度にもたらす影響の度合いを、オークション理論、不完全競争市場を想定した経済理論モデルを用いて分析した。本研究では、に関する研究に進捗があり、国際的な査読誌であるPacific Economic Reviewに2014年に掲載された。具体的には、官僚に裁量権があり賄賂の対価に再入札を認める場合に、非効率な企業が政府調達を勝ち取る可能性がある。その解決策として海外部門への輸出を導入することで、効率的な企業が高品質な商品を提供する状況になることを示した。

研究成果の概要(英文)：From FY2012 to FY2015, we analyze the economics of corruption by (i) applying auction theory and (ii) imperfect competition model. We also commentary on the Japanese translated book, "Economic Gangster" to the general public. For the first approach, we have the following results: Mizoguchi and Quyen (Pacific Economic Review, 2014) analyze a corruption in the context of public procurement in which the contracting officer is corrupt. The corrupt bureaucrat takes bribes to misreport on quality and passes on bid information about the rival's bid to the bribe-giving firm so as to enable it to revise its bid and win the contract. Our analysis suggests that when the firms serve only the internal market, the public project is realized at low quality and inflated prices. However, when the firms are also allowed to sell the product they develop for the internal market in a foreign market, the auction is ex post efficient.

研究分野：公共経済学

キーワード：腐敗 汚職 公共調達 官僚行動 賄賂

### 1. 研究開始当初の背景

公職に携わる人々が私益のために公の職権を濫用する腐敗・汚職の問題は、市場メカニズムを歪ませ、そして経済厚生を悪化させ、一国の経済成長を阻害する。本研究は、このような腐敗・汚職行為が国家・市場制度にもたらす影響の度合いを応用ミクロ経済理論モデルの立場より、一国の経済厚生に与える影響を分析することにある。計画している具体的な研究課題としては、一国内における「制度・統治の質」の決定要因を明らかにし、その中でも腐敗・汚職が、人為的に市場のメカニズムの効率性を歪め、経済厚生に損失をもたらすことを示した上で、規範的にどのような腐敗・汚職防止策が考えられるのかを経済理論のモデルを用いて提言する、の3つである。

### 2. 研究の目的

腐敗・汚職の問題は、市場メカニズムとは異なる賄賂という金銭的インセンティブによって、資源配分の歪みを通じて一国の経済厚生に悪影響を及ぼす。これまでの研究において、腐敗・汚職の問題は文化や慣習などの問題として取り扱われることが多く、経済理論による分析は発展途上である。また腐敗・汚職に対する見方について、世界各国・地域においてそれぞれ腐敗・汚職に対する寛容度が異なるため、文化・慣習の問題として取り扱われ、統一的な見解は定まっていない。殊更、腐敗・汚職の問題は世界銀行などの国際機関、トランスペアレンシー・インターナショナルなどのNGOによって経済発展を阻害する要因とされ、腐敗・汚職に関連した統計データの整備やそのデータを用いた腐敗・汚職の実証分析が数多くなされている。しかしながら、経済理論モデルを使った腐敗・汚職の規範分析は実証分析と比較すると、まだ発展途上の段階にある。規範分析の中でも腐敗・汚職が一国の経済厚生にどのような影響をもたらすのか、経済制度の違いによってどのような

違いが出てくるのか、現段階でまだ多くの研究の余地が残っている。本研究において、申請者らは各国の制度や文化によって見解の異なる腐敗・汚職の問題を全体的に分析するための基礎的な経済理論モデルの開発を行う。

### 3. 研究の方法

腐敗・汚職行為によって、健全な市場機能を損ねる結果、経済成長を鈍化させる恐れがある。そのため腐敗・汚職行為の防止は世界各国でも重要視されている。そこで本研究では、経済モデルを利用した上で、腐敗・汚職がどのような形で国家統治や制度、市場の質に影響を与えるのかを経済厚生の評価から明らかにし、社会厚生に寄与する腐敗・汚職防止策を考案する。

本研究では

- (1)一国内における「制度・統治の質」の決定要因の解明。
  - (2)経済モデルによって、腐敗・汚職が市場の効率性の歪み、つまり、経済厚生に損失をもたらすメカニズムを探求する。
  - (3)経済理論モデルを用いて規範的にどのような腐敗・汚職防止策が考えられるのかを提言。
  - (4)需要および供給の両面から見る賄賂・癒着のインセンティブの要因と経済活動に及ぼす影響の解明。
- の4つの研究課題を総合して行った。

### 4. 研究成果

本研究において、研究代表者らは各国の制度や文化によって見解の異なる腐敗・汚職の問題を全体的に分析するための基礎的な経済理論モデルの開発を行った。本研究課題においては、公共調達に関する腐敗・汚職の問題について経済理論を用いたアプローチから新たな知見を得た。研究期間内で研究代表者らは腐敗・汚職の防止に関していくつかの研究結果を得ており、これらの結果を基に今後も研究を継続・発展させていく予定である。

本研究課題期間中に得られた知見は(1) , (2) であり, 引き続き(3)から(5)までについて現在研究を継続中である .

(1) 官僚が国内のみの政府調達オークションを裁量的に取り仕切り、賄賂の対価として企業に再入札を認めることができるという設定のもと、コスト高で低品質の企業は官僚に賄賂を支払い、政府調達を勝ち取る可能性がある。したがって政府が低品質で非効率な企業の商品を購入することになるため、国内の経済厚生を悪化させる可能性がある。その解決策として海外部門への輸出を導入することで、効率的な企業が高品質な商品を提供する状況になることを示した。(Mizoguchi and Quyen, Pacific Economic Review (2014)) .

(2) 開発途上国を想定した参入規制のある市場に新規に参入しようとしている企業が、参入規制に関わっている複数の官僚に対して賄賂支払額を集合的に交渉する状況を分析した。具体的には、煩雑な参入規制のある市場に新規参入企業が、参入規制に関わっている複数の官僚と参入の見返りである賄賂総額を交渉する経済モデルを分析した。特に開発途上国では、低賃金のため生活のために賄賂をやむなく得るケースが多く、本研究では効率賃金を導入することで賄賂の抑止になることを比較静学的手法によって示した(Mizoguchi (2014)) .

(3) 公務員の再就職市場のメカニズムを規制官庁と民間企業との間の最適オークションと考え、分析した。官公庁からの天下りを受け入れないと民間企業はプロジェクト受注ができないという設定のもと、天下り先の企業は結果としてリスクな投資を行うため、社会的にみて経済厚生が悪化してしまうことを示した(Mizoguchi and Quyen, Journal of Public Economic Theory (2012)) .

(4) 公企業と私企業という目的が異なる企業で構成される市場において、官民の間で行われる賄賂や汚職が与える影響についてのモデル構築を試みた。Tomaru and Saito, Manchester School (2010)では、公企業の民営化および政府の補助金政策を考慮した場合、政治的な要因により補助金政策に歪みが生じるならば、民営化は望ましい政策でなくなることが示唆されている。本研究では、政府による補助金政策に関連する政治プロセスの1つである賄賂や汚職の要素を考慮したモデル構築を検討し、それらが社会厚生に与える影響を考察した。また、企業組織における所有と経営の分離にも着目することで、賄賂・汚職を伴った企業組織構造が市場競争に与える影響を踏まえたモデルの検討も行った。

(5) 参入規制のある市場に新規参入企業が、参入規制に関わっている複数の官僚と賄賂支払額を交渉する状況を分析した。具体的には、煩雑な参入規制のある市場に新規参入企業が、参入規制に関わっている複数の官僚と交渉する一般的なモデル分析を行った。研究代表者らは引き続き、(a)汚職・腐敗のない場合の(3)、(4)のモデルで得た知見を基に、腐敗・汚職の要素を組み入れた不完全競争市場における経済厚生分析を行い、(b) (Mizoguchi and Quyen, Journal of Public Economic Theory (2012)) の経済モデルをベースに、企業における官僚に対する贈賄がリスクヘッジだけではなく、利潤最大化に沿った長期的投資であるようなモデルの構築を行う予定である。

(6) 腐敗・汚職防止活動の国際的な NGO であるトランスペアレンシー・インターナショナルの腐敗認識度数の具体的な事例の調査を行い、その成果の一部をフィスマン&ミゲル『悪い奴ほど合理的』(NTT 出版) の解説「経

経済学者たちの仁義なき戦い」という形で研究成果を一般に向けた解説を行った。

<引用文献>

Tomaru, Y and M. Saito, Mixed Duopoly, Privatization and Subsidization in an Endogenous Timing Framework, The Manchester School 78(1): 41-59, 2010.

Mizoguchi, T and N. V. Quyen, Amakudari: The Post-Retirement Employment of Elite Bureaucrat in Japan, Journal of Public Economic Theory, 14(5): 813-847, 2012.

Mizoguchi, T, Bribery and Efficiency Wage, mimeo, 2014.

Mizoguchi, T, and N. V. Quyen, Corruption in Public Procurement Market, Pacific Economic Review, 19(5): 577-591, 2014. DOI: 10.1111/1468-0106.12084

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

Mizoguchi, T, and N. V. Quyen, Corruption in Public Procurement Market, Pacific Economic Review, 19(5): 577-591, 2014. (査読有)

[学会発表](計 5件)

溝口哲郎, Bribery Prevention and Efficiency Wage, 10<sup>th</sup> Biennial Pacific Rim Conference, Western Economic Association International, 2013年3月16日, Keio University, Tokyo.

溝口哲郎, Bribery Prevention and Efficiency Wage, 統計研究会財政金融研究委員会, 2013年4月24日, 慶應義塾大学, 東京.

Mizoguchi, T, Bribery and Efficiency Wage, SFU-NIESG Workshop on Globalization, International Trade, and Macroeconomic Dynamics, 2013年12月17日, Simon Fraser University, Canada.

溝口哲郎, 腐敗認識指数(CPI)について, Workshop on Anti-Bribery in the World, 2013年12月20日, 英国大使館, 東京.

溝口哲郎, Bribery and Efficiency Wage, Workshop on Competition and Market Structure, 2014年3月12日, 千葉経済大学, 千葉.

[図書](計 1件)

溝口哲郎「経済学者たちの仁義なき戦い」(フェイスマン&ミゲル『悪い奴ほど合理的』(NTT出版所収)

[産業財産権]

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

溝口哲郎 (Mizoguchi, Tetsuro)

麗澤大学・経済学部経済学科・准教授

研究者番号: 40566890

(2)研究分担者

齋藤雅元 (Saito, Masayuki)

東京経済大学・経営学部・専任講師

研究者番号: 80434215

(3)連携研究者

( )

研究者番号: